

日時 平成 20 年 3 月 8 日(土)17:30~19:30

場所 PC ビレッジ

参加者 F、K、H、FK、I、U(書記) (6名) *敬称略

1. 概要

2. 内容

FK:それでは団塊と行政との関わりの第 3 回という事で今回日の出町民大学で活躍された F さんにお話を伺いたいと思います。

F:日の出町は人口が 15,800 人の町です。ここに団塊世代が人口の約3割の 4,000 名存在しています。先日 5 回にわたり、‘退職後の過ごし方’というタイトルで日の出町民講座にて実施した。この目的は団塊世代が定年退職した後、町の活性化に一役買ってもらうということ及び趣味講座などの一過性の講座では町自体のパワーとならないので何かプラスするものはないかとの事でありました。各々からの意見をここで集約すると以下の通りと考えている。

①行政からの意見:

- ・このような感じの講座は今までに無く、開催して良かった。
- ・この講座の受講者は問題意識が高い。
- ・DNO の協力を得てよかった。
- ・参加者が少ないので今後は集客方法を検討しなければならない。
- ・次回は講座に著名人を配したい。
- ・講座のネーミングに工夫が必要。‘退職した人しか参加できないのか’と思えるので。
- ・内容の守備範囲が広く、ハツツものを希望していた人もいた。その接点をどう取るかが課題
- ・この講座の生かし方が判らない。
- ・この講座は行政に対する不満や意見発表の場として開催していない。

②DNO にとって:

- ・意見交換の場を多く持ったので受講者の参画意識が強かった。
- ・講師と受講者の双方向で意見交換ができたのが良かった。
- ・団塊世代をターゲットとしたが少し高い年代の方も来た。
- ・依頼者からの要求をほぼ満足させた。
- ・我々が目指している団塊世代の生き方支援の正当性を確認できた。
- ・集客が難しかった。これはネーミングによる所も影響しているのかなあ。
- ・行政主催なので参加者は行政批判になり勝ちであった。そうでない事の意図を明確にしておく事が必要。
- ・依頼者(日の出町)の希望をもっと掘り下げて聞く工夫が必要。
- ・ターゲットが男か女か男女かが明確でなく曖昧であった。
- ・一般的に講座では女性の数が多い。男性の参加を増やすのが今後の課題。
- ・受講者がネットでメールが出来ない事がネックであった。

③社会教育課の考察:

企画は良かったが、参加人数が少ないという事が気になった。当初、漠然としたものしか見ていなかった。男性が 60 歳定年でそれ以後の過ごし方というようにしか考えていなかった。色々な条件で最近は寿命が延びてきているので、次年度もこのような講座の継続実施を考えている。

④F の考察:

今回は 5 回シリーズで依頼者の要望に沿ったものをほぼ提供出来たと思っている。日の出町は高齢化が急速に進むことが予測されており、(団塊の多く住む)2 つの団地を今後はターゲットにすればいいのではと思っている。地元に基づ盤を持たない定年組は町民大学終了後、直接地域活動を行なってくれると期待している。次年度への取り組み課題が数多くあり、これで得たものは大きい。

⑤今後の課題:

活動場所の提供。この講座は日の出町役場で企画したものであるが、我々は太陽の家をフィールドの活動拠点として提供することが出来る。当面 5 月の花咲き祭りをターゲットとして、ボランティアを集めたい。これをこのメンバーによる最初の活動としたい。行く行くは仮称‘日の出生涯学習市民の会’を設立したい。

H:この企画はすごかったと思う。これを知らない人は何をやっているのであろうかと思われるが、やっている事は今の日本が何処でも抱えている問題を行なっているということである。この講座で本当の生き方を見せて頂いたように思う。行政の K さんの主旨が明確であったので、考えている事が全く同じだと印象を受けた。その意味ではすごい成果であると思っている。また生き方の問題であるが、結果として受講者中心に動き出し始めて良かったと言える。タイトル、中味、ターゲットは当初あいまいであったが、これを 1 回実施したことにより、内容が見えてきた事もあり、今後これを踏まえ解決してゆくものと考えている。このような講座を連続してやれば、他にも色々見えてくるものがあるであろう。K さんがこの DNO にたどり着いたのは恐らく、日本中のどこにも無かったのであろう。DNO の理念がホームページに記載されており、それを直感的に感じてもらえたと思っている。新しい事を実施したのであるから批判は多くあると思うがこれ等は受け入れねばならないと思っている。定年後の過

し方など名前は何でも良く、ネーミングは大きな問題ではない。この土台は我々のやりたかった事とKさんがやろうと思っていた事が曖昧ながらも同じ方向を向いていたと思った。我々は1回実施したので、今回発生した反省点を整理する必要がある。今後に対し、これは必要であるという項目にて、積み重ねる土台が今回出来たと考えている。我々にとって貴重な一步を踏み出したという気がしている。ここは行政の政策について語る場ではない。子育て支援をしたいとの提案があり、行政で現状の説明したが、その結果、それらの現状は市民にレポートとして届いていないとの批判があったが、これは本末転倒であった。受講者にも一步踏み出して欲しいが、それが行政に対する批判や文句となるなら余り意味が無いかもしれない。また、行政の側もそれをきちっと受け止めて頂ければとの希望がある。

F:お互いを知らない事が問題である。行政と市民が普段からコミュニケーションをやっておけば、行政側と市民という事ではなく、解決できたかもしれない。市民特にサラリーマンは今まで生産性を追及した会社に所属して、町には興味を示すことも持つことも必要がなかった。子育て支援にて途中で行政の方に来て頂いたので、これが町への第一歩となったと思っている。我々は町がどうなっているのかを知らなさすぎるのではないかと。参加者が少なかった事がそれを表している気がする。

I:話をお聞きすると、このDNOがすごい事を実施してるのだとの実感を得ることが出来た。今日もそうであるが、集客の問題はどこにもついて回るものであるが、このような生き方を提示する講座に人を集める事は特に難しいかもしれない。

K:今回はどうもありがとうございました。先ほど話題に出ました、場所の問題ですが、それは学校の空き教室を使うとかで活動は可能と考えております。羽村の‘ゆとろぎ’のようなハードとソフトの施設を持つ事は予算とか体力に限界があるので、すぐに実現は難しいが、このような講座ののような発表できるものも良いと考えている。残念ながら市民活動として、日の出町ではそこまで育っていない。それを今後育ててゆかねばと考えている。産業祭などを含めて、趣味で歴史を勉強したいという人などに提供できるものかと思っているが、まだ日の出町にはそのような対応されたものはない。

F:羽村市ゆとろぎの「市民の会」は、昔からの公民館活動を引き継いでいる。羽村は市民参加型の歴史があるので上手くいっている。市民の会への参加は、誰でも出来るが現役は時間的制約がありなかなか難しい。

I:どんな講座を作るかの講座があっても良いかも。

K:次回は有名人を呼んで、人集めから実施したい。

F:それでは今後は5月4日の花咲きまつりをターゲットに集結を計る事から始めよう。

FK:日の出の講座に13名も集まったのは大変な事と思う。

時間となりました。今日は遠いところお越し頂きありがとうございました。

以上